

昨年10月より、アンケート調査など、地域の方々にご協力いただき、「マップ植田のまち」(仮称)を作成しております。文化祭において中間報告を兼ね、展示してみましたがご覧になられたでしょうか。植田校区は、戦前戦後の歴史には、4千3百余名が地域の裏を受け、人情豊かな風俗、風習をもって生活していた地でありましたが、時代の流れとともに核家族化・少子高齢化を余儀なくされ、現在では2千8百余名に減少しています。

そこで、今、我が家も植田を見直し、「安心・安全で、いつまでも住み抜けたいまち」を目指した町づくりをするための、コミュニティプランの一環として取り組んでいます。植田校区コミュニティ協議会のホームページができます。サイトの1ページを飾ることができます。今後は、アンケート調査に加え、聞き取り、資料集めに奮闘していきたいと思っています。地域の皆様の生むすべてのご協力をよろしくお願い致します。

子どもたちや若者が「植田のまち」に興味、関心を持ち、おじいちゃんやおばあちゃんを誇って、一緒にパソコンの画面を覗きこむ姿を紙ベースのマップで眺めながら会話を花が咲いたり、子どもたちの隣間に答えたりと世代間の交流が増える様子を思い浮かべ、子どもから大人まで、若者、熟年、熟年世代までみんなに、よりパワーアップしてもらえる『元気の種』になれたらしいな、と欲張っています。



コミュニティセンターが指定管理者制度導入

高松市連合自治会連絡協議会が市長および市議会議長へ、平成14年9月6日、地域コミュニティ構築に向けた行政の支援策として地区公民館を地域コミュニティの活動拠点として、位置づけすることについての要望書が提出されました。

これを受けて高松市では高松市地域コミュニティづくり推進本部において活動拠点のあり方について調査研究を行ったところ、地区公民館を有効活用することとなりました。

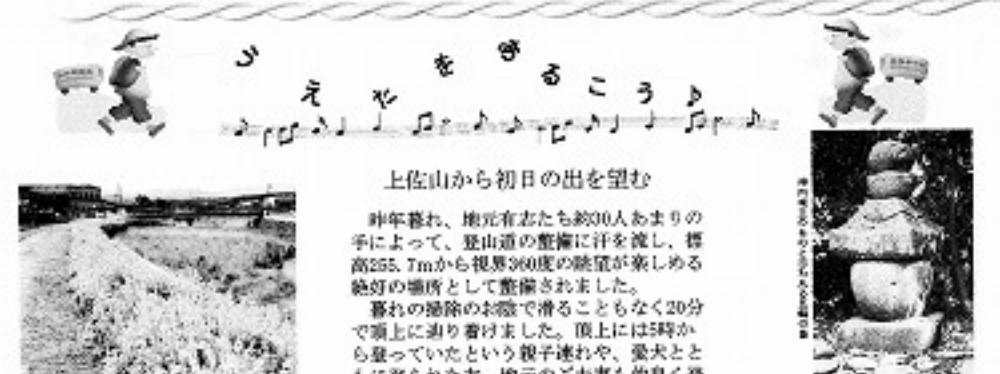
さらに、田舎松市金城でコミュニティ組織が立ち上がる平成18年度からは、生涯学習の活動拠点としての機能を維持しつつ、自助・共助・公助の考え方のもと、まちづくりを進めるための活動拠点として、地区公民館をコミュニティセンターとして位置づけました。

まとめて言うなら、地域は地域のみんなの手で運営・管理・有効活用していくことでしょう。今後もよりいっそうの皆さんとの協力が必要になります。よろしくお願いします。

今年は、4月8日(日)の県議会議員選挙をはじめ、2週間後の22日(日)には高松市長と市議会議員の選挙が、さらに、夏には参議院議員選挙が行なわれます。こうした選挙で、これから私たちの暮らしはどうなるかが決まるといつても決して言い過ぎではありません。選挙は、政治に参加するための大切な権利であるばかりではなく義務であります。投票日前に投票ができる「毎日前投票」の制度があります。この制度は、従来の「不在者投票」とはちがって、投票の手続きが簡単で、投票用紙を封筒に入れて署名する手続きが不要で、直接投票箱に投票できるようになっています。また、投票当日に高松での投票ができない人や、病院、老人ホームなどの施設にいる人はこれまでどおりの「不在者投票」ができます。詳しくは、高松市選挙管理委員会(087-839-2044)にお尋ねください。

最近は、若い世代の人たちの政治や選挙に対する関心が低下しているといわれていますが、若者たちも、ぜひ、一票を投じましょう。みなさん、選挙当日はみんなで投票に行きましょう。


おれないでね。



上佐山から初日の出を望む

昨年暮れ、地元有志たち約30人あまりの手によって、登山道の整備に汗を流し、標高255.7mから視界360度の眺望が楽しめる絶好の場所として整備されました。

暮れの掃除のお陰で滑ることもなく20分で頂上に辿り着けました。頂上には5時から登っていたという親子連れや、愛犬とともに登られた方、地元のご夫婦も仲良く登って来られ、俄に熙やかに。山の麓からの日の出は拝めませんでしたが、雲間から明るく輝く初日が想像し、鏡ヶが願いを込めで合掌。ビールで乾杯し、記念撮影も。

皆さん、ぜひ来年はご一緒しましょう。



川東の土手の花畑

今の季節、池田町のあたりを春日川沿いに歩くと、池田橋を起点に300mくらいの間、川の右岸に菜の花の黄色い花が咲いています。これは、川東の泉清善さんが、5年ほど前から毎年育てているのです。9月に種をまいた菜の花は、まだ花の少ない1月ごろから咲き始め、5月ごろまで私たちを楽しませてくれます。「通学する生徒たちがその花園だけでもさわやかな気分になって通ってほしい」との想いで育て始めたそうですが、学生だけでなく通る人みんなの気持を明るくしてくれています。

今年は秋にも黄色いコスモスの花を咲かせようと計画しているそうです。秋には黄色いコスモス街道を見ることが出来るかもしれません。



中住に植田で活躍していた神内氏の居城が東神内にあるので訪ねてみました。

上佐山が望める、藤原神社の前の標高百メートル弱の丘の頂上は平坂になっており、土里が菜が大きめの塊切もあって防護上の工夫がされているように見えます。この付近の平地には、城壁敷、本塁敷、中塁敷、奥堤といった地名が残ることから、當時は平地の居城に居り、職時の居城として神内城が築かれたと思われます。また山根には苔むした五輪塔が数基あって、神内城の墓といわれているが風化していく利害しづらのが現象。

私たちの住んでいる植田でも、数百年前に石垣を守らんと戦いに明け暮れていたことがあったなんて不思議な感じがします。

新年になって、歷代の植田小学校の子ども会役員会の皆さんが結集し、懇親を探しました。平成元年の頃から、役員をされた皆さん、同窓会のように、昔話に花が咲き、今現在の様子など、語り合っていました。

育成会役員が、現在では、地区の役員などで、活躍されている方が多く、地域密着型役員ボストであるなあ～と、実感しました。そう…地域のどこかで見かける人たちはばかりでしたね。

懐かしい気持ちでいっぱいになりましたが、まだまだ地域のために活躍して欲しい人たちはばかり。

皆さんも、かつての役員仲間と懇親を探めていかがでしょうか？そして、また、地域のためにもうひとがんばりしてみませんか。



神内城